

■自閉症のある子どもたちへの実践事例

重度自閉症の学級における集団での活用・個での活用

京都府立南山城支援学校
純岡 美菜子

学級の実態

自閉症のある中学3年生5人の学級です。発達年齢は、おおよそ1歳半から4歳です。コミュニケーションについては、身の周りの簡単な言葉を理解している程度で、聴覚的に入った言葉を瞬時に理解することが難しいです。発語も少ないので、会話としてのやりとりではなく、表情や視線、動きを通じて、豊かに自分の気持ちを伝えて関係を深めています。

絵本の親しみ方

大型絵本の読み聞かせという形を学習に取り入れ、親しんでいます。内容をひとつひとつ理解することは難しいのですが、場面の変化を見て楽しんでいます。しかし、ひらがなやカタカナの文字理解はまだできていないので、ひとりで読むことは難しく、好んで絵本を読む子どもはいないのが現状です。

そこで、「音声で読み上げてくれるマルチメディアDAISY図書でなら、絵本の楽しみが広がる」と本学級での活用

を試みました。さらに、余暇時間の楽しみ方のひとつにならないか、文字に関心が出てきた子どもの文字理解につながらないかというような効果も期待して活用してみました。

集団（学級）での活用事例

(1) 活用教材：『ぺったん！ サンドイッチ』『ことこと ことこと』

授業内の読み聞かせで活用しました。iPad自体に関心があるという点から、ひとつの画面をみんなで見ることができました。読み上げる声色が変わると“ん？”と、集中がそれていた生徒も再度画面に目を向けることができました。ストーリーをつなげての理解は難しいですが、身体を動かして絵本の場面を実演したり、発声できる言葉を言ったりしながら楽しむことができました。

(2) 成果と課題

読み聞かせをするにあたって、生徒の反応に合わせて読む速度を調整できる点、指導者も生徒側の立場に立って

読み聞かせに集中できる点でとても有効だと感じました。

個での活用事例

(1) 生徒Aの場合

(発達年齢：おおよそ3歳)

・活用教材：『ケーキ・ケーキ・ケーキ』

聞こえてくる音とともに少しずつ現れるお菓子の様子をよく見ていました。知っている“プリン”などのページは、視線をそらすことなく見ることができました。聞こえてくる言葉とイラストをつなげて楽しんでいる様子が見られました。この教材を通して、今まで知らなかったお菓子も知ることができました。



休み時間に教室で

(2) 生徒Bの場合

(発達年齢：おおよそ2歳半)

・活用教材：『ことこと ことこと』

音声に合わせて文字の部分に色が移っていく様子に注目していました。動くものに注目しやすいようなので、読み上げのペースを速めてページの移

り変わりを早くすると、目をそらさずにイラストを見ることができました。繰り返される「ことこと ことこと」という早口な音声も気に入り、笑顔で楽しむことができました。

(3) 生徒Cの場合

(発達年齢：おおよそ2歳半)

・活用教材：『ケーキ・ケーキ・ケーキ』
『ことこと ことこと』

音声とともに文字の色が移っていくところに注目し、指で触っていました。触っても反応がないことがわかると、イラストのほうに集中し、ページに出てくるお菓子に注目していました。発音しやすい“プリン”や“クッキー”などは音声を聞いてからの促しで「ぷ・り・ん」と発音することもできました。「おいしそうですね～」の言葉かけにより、より目を見開いて画面を見ている姿が見られました。



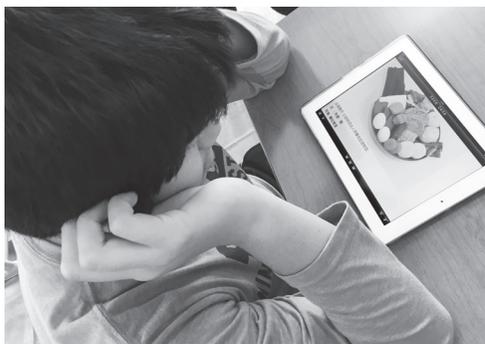
文字部分をさわって

(4) 生徒Dの場合

(発達年齢：おおよそ1歳半)

・活用教材『ことこと ことこと』

絵本に限らず物事に注視することが難しく、目の前のiPadの画面を注目することも難しかったです。絵本のストーリーもつかめないの、興味が続かず、途中で席をたってしまいました。



聞き慣れない音が…

(5) 生徒Eの場合

(発達年齢：おおよそ4歳)

・活用教材：『おおきなかぶ（絵のみ演劇風）』

もともと『おおきなかぶ』の絵本が大好きなので、最後まで注目することができました。音声に合わせて「ぬけません」などと、発声できる単語を言って楽しんでいる様子も見られました。

また、本の選択ページにも興味をもち、一緒に覗き込むように見えていましたが、文字表示のみのため、自分では選べませんでした。

(6) 成果と課題

余暇として、生徒の好みにあった本を選びスタートさせて渡すことで、イラストを見たり画面に触れたりしながら楽しめることがわかりました。

本の選択ページのアイコンにイラストなどがあると、文字習得前の生徒でも興味のある絵本を自分で選択して楽しめるのではないかと思います。

まとめ

言葉の理解に課題があり、聞いたこと見たことをイメージでつなげにくい生徒にとっては、“絵本を楽しむ”ということに難しさがあると感じています。そういった生徒には、さまざまな種類の絵本に自分のペースで繰り返し触れ、楽しいと感じる場面に出会う機会が必要だと思います。

今回の活用実践から、1台で複数の絵本に触れることができ、音声での読み上げがあるマルチメディアDAISY図書は、そういった生徒のニーズに応えてくれるツールの一つだと感じました。さらに幅広い分野の図書を増やしていただけることを期待しています。